

みなさんおはようございます。まだ3年生は補充授業がありますが、いよいよ長い夏休みが始まります。さて私はこの場でみなさんに国際社会で活躍する人材になってほしいとか社会を引っ張るリーダーになってほしいとか幾度となく話してきました。それでは理想のリーダーとはどのような存在なのでしょう。我々の先輩教員に戦後の国語教育をリードした大村はまさんという方がおられます。大村はまさんが書かれた書物の中に「仏様の指」という話があります。ある夏の日、仏様が道の傍らに立っていると、そこにリヤカーに一杯の荷物を載せた男がやってくる。リヤカーは道の窪地にはさまって動けなくなってしまった。男が額に玉のような汗を光らせながら引っ張ってもどうしても動かない。そこで仏様は男に気づかれぬようにそっとリヤカーの後ろから指で押してやる。すると車輪が窪地から抜け、男は自らの力で抜け出したと意気揚揚にリヤカーを引っ張っていく。そんな話です。我々の心には人から感謝されたい、自分の存在を認められたいという思いがあります。当然のことです。私はリーダーとしてそういう時期があってもいいと思います。ただし、大村先生はそのように思っているうちはまだまだリーダーとしては2流だといいます。一流のリーダーは相手に支援してるとは悟られず、見えないところで支援して育てていくものだとおっしゃっています。みなさんはどのように思いますか。長い夏休みです。自分は人生をどのように生きていくか、そんな根本的な命題を心の片隅におきながら過ごしてください。